

# 大津企業景況調査報告書

(第39回)

平成19年10月～12月期 実績

平成20年 1月～3月期 見通し

大津商工会議所

# 大津企業景況調査について

(平成19年10月～12月期)

## 1. 調査方法

大津商工会議所会員企業100社にFAX方式による調査

## 2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
建設業	20社	19社	95.0%
製造業	10社	10社	100.0%
卸売業	10社	10社	100.0%
小売業	30社	30社	100.0%
サービス業	30社	30社	100.0%
合計	100社	99社	99.0%

## 3. 調査期間

調査対象期間は平成19年10月～12月とし、調査時点は平成19年12月7日とした。

## 4. 調査データについて

調査の結果を示す指数としてDI指数を採用した。DI指数とはDiffusion Index(景気動向指数)の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた数値である。

「業況」、「売上高」、「採算(経常利益)」、「従業員」のDI指数は、前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金借入れの難易度」のDI指数は、3ヵ月前との比較である。

「取引の問合せ」、「採算(経常利益)の水準」のDI指数は、過去比較でなく水準を聞いたものである。

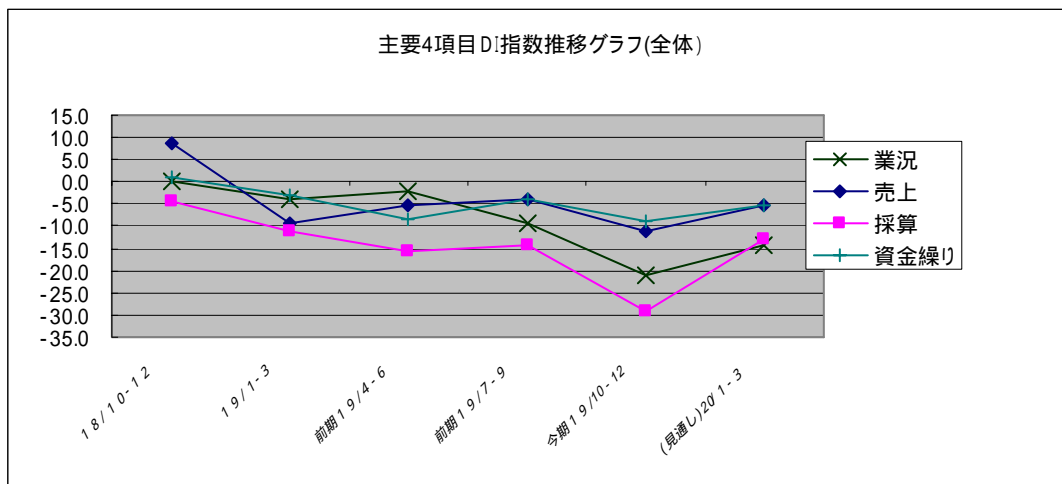
## 景況感は悪化傾向

平成19年10月～12月期の大津企業景況調査の結果がまとまった。調査結果を示す指数としてDI指数(景気動向指数)を採用している。DI指数は実数値などの上昇率を示すものでなく、強気、弱気などの経営者マインドの相対的な広がりの意味する。

### 全体

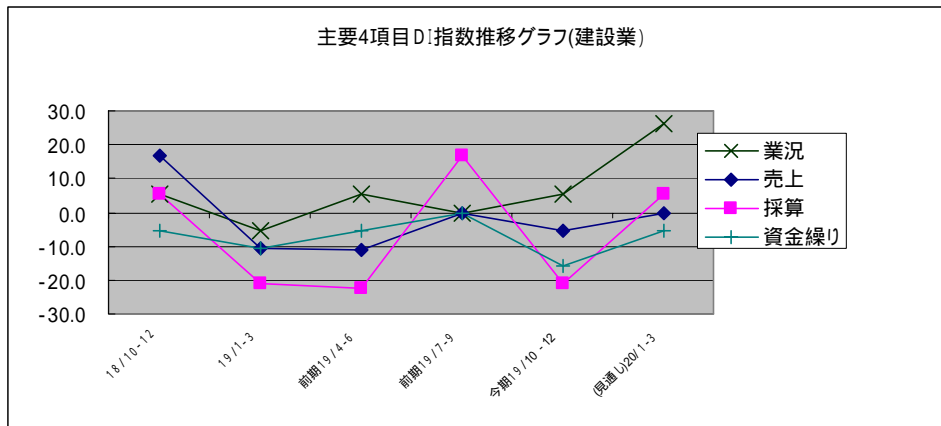
景況感は前期には弱含みの状況を示していたが、今期は悪化傾向が強まってきた。全体のDI指数をみると「業況」指数(「好転」-「悪化」)は、前期の9から今期21とマイナス幅が拡大し悪化している。「売上」指数(「増加」-「減少」)も4から11と売上減少が続いている。「採算(経常利益)」指数(「好転」-「悪化」)は14から29にさらに悪化した。ただし「採算(経常利益)水準」指数(「黒字」-「赤字」)はプラスで採算は何とか確保している。「従業員」指数(「不足」-「過剰」)は+12程度のプラスが続いているのは、労働力が中小企業に回らないための人手不足とみられる。「資金繰り」指数(「好転」-「悪化」)は4から9へと悪化が続いている。このように悪化傾向が強まったのは、原材料高をなかなか販売価格に転嫁できない中小企業が多いことや人手不足が経営を圧迫しているためとみられる。

業種別にみると建設業で景況感がやや回復を示している以外は、製造業、卸売業、小売業、サービス業ともに景況感が悪化している。



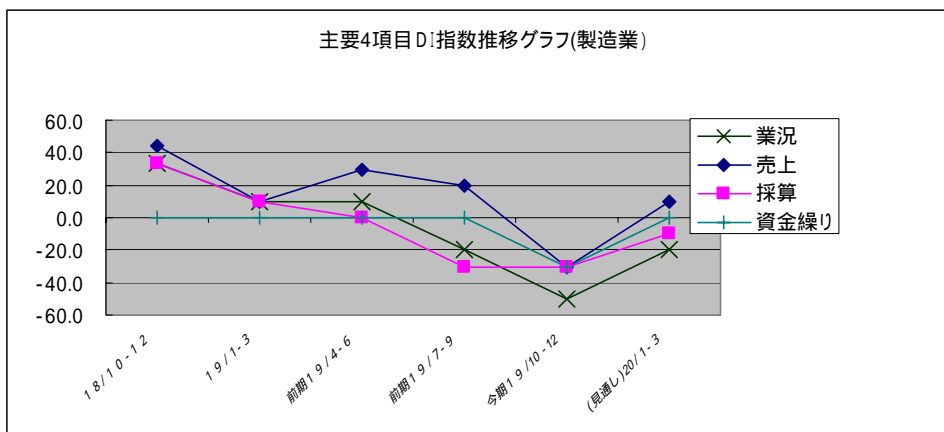
## 建設業

DI 指数をみると「業況」は前期の 0(横ばい)から今期+5(好転)となり景況感はやや回復を示している。しかし他の指標ではマイナス傾向にある。「売上」が 0(横ばい)から今期 5(減少)となり、「採算」は+17(好転)から再び 21(悪化)に転じた。「従業員」の不足感が続いていることから、忙しい状況が続いているとみられる。「資金繰り」は 0(横ばい)から 15(悪化)となり、「取引の問合せ」は 6 から 10 と低調である。



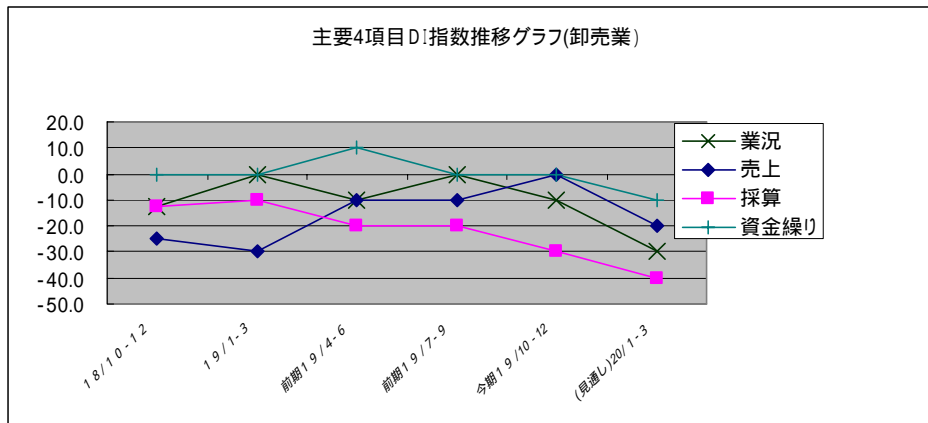
## 製造業

DI 指数をみると「業況」は前期 20(悪化)が今期は 50 とさらに悪化した。「売上」が+20 から 30 と減少に転じ、「採算水準」は+50 から+40 とプラス(黒字)で推移しているが、「採算」は 30(悪化)が続いている。「従業員」はやや不足(+10)となっている。「資金繰り」も 0(不変)から 30 と悪化した。業況の悪化は原材料高をなかなか販売価格に転嫁できないことが主な要因とみられる。



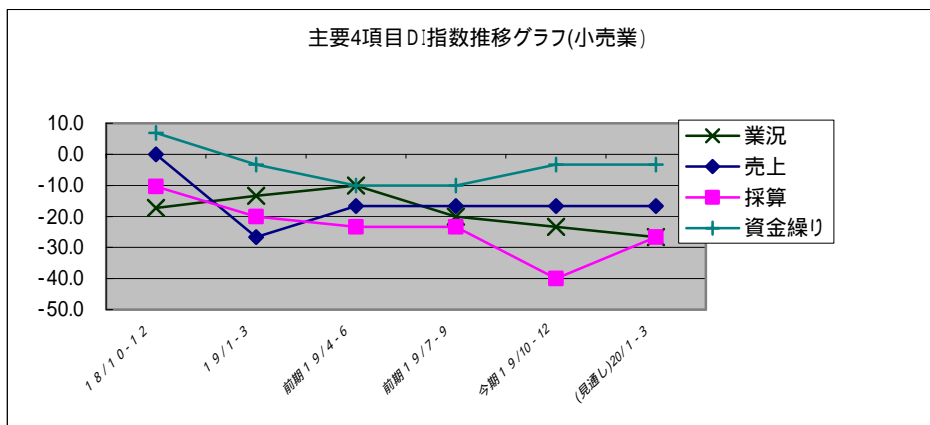
### 卸売業

DI 指数をみると「業況」は前期の 0(横ばい)から今期は再び 10(悪化)となった。「売上」は前期 10から今期 0(横ばい)で下げ止まりつつある。「採算水準」は+20から+10と黒字を維持した。「資金繰り」、「資金調達」は安定しているが、「従業員」は業種の中で唯一マイナス(過剰)となっている。



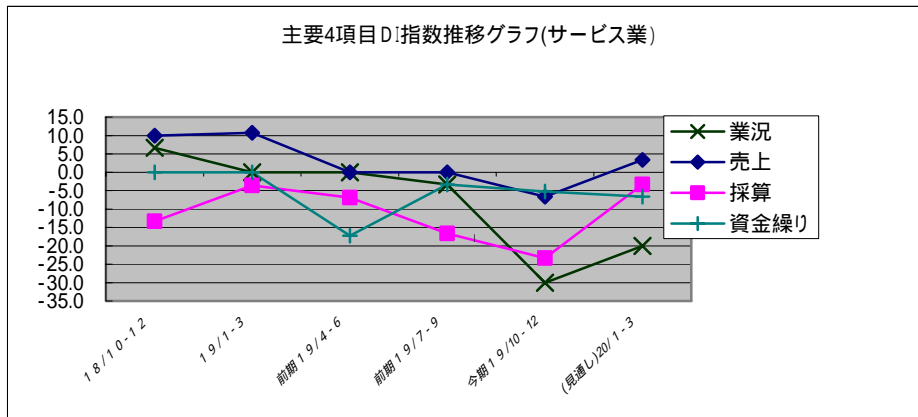
### 小売業

DI 指数をみると「業況」は前期の 20から今期 23と依然悪化傾向が続いている。「売上」は 17から 16と悪化が続き、「採算」が 23から 40と悪化傾向が止まっていない。「取引の問合せ」は 27から 23と低調に推移している。「従業員」は+13から+16と人員不足が続いている。「資金繰り」はやや悪化しており、「資金調達」もやや厳しい状況である。



## サービス業

DI指数をみると「業況」は前期 3(悪化)から今期は 30と悪化傾向が強まった。「売上」は前期 0(横ばい)から今期 6と低調で、採算水準は黒字を維持しているが、「採算」が 17から 23と悪化が続いているためとみられる。「従業員」は+20から+16と人員不足感が継続している。「資金繰り」は 3から 5へ悪化傾向が続き、資金繰りは少し厳しい状況である。



今の経済情勢に対する意見は、「燃料高による運賃転嫁が進まない。政府指導による解決策を望む」、「原油高等が影響している感がある」、「介護保険は今最も厳しい状況にある！！」、など地方経済、特に小規模事業者の実態はまだまだ厳しいので、経済対策を望むという声も依然として多い。

来期の見通しについて、全体では「業況」は悪化傾向が続くという見方が多い。「売上」は減少し、「採算」は悪化し、「従業員」の不足傾向はさらに加速するとみている。業種別では製造業でも採算が悪化して業況もさらに悪化する。卸売業、小売業、サービス業でも業況が悪化するという見方に変化してきている。ただし、建設業だけは業況の好転を見込んでいる。これは、改正建築基準法の施行で遅延していた工事が年度末にかけて一気に集中するという見方かもしれない。

来期の設備投資については、設備投資計画があると回答した企業の割合が 19%で、特に製造業では 50%が計画している。設備投資の中味は設備更新投資が 33%と多く、合理化・省力化投資が 17%、生産力増強投資が 17%である。今後の景気にかかわらず計画通り投資を行うとする企業が 84%を占め、投資意欲は堅調である。

(中小企業診断士 田中清行)

## (今の経済情勢に対する意見)

今の経済情勢に対する意見を寄せた企業は3社であった。

- ・燃料高による運賃転嫁が進まない。政府指導による解決策を望む。
- ・原油高等が影響している感があります。
- ・介護保険は今最も厳しい状況にある！！

DI指数一覧表

	業 況		売 上 高		採 算 ( 経 常 利 益 )	
	10-12月期 動 向	1-3月期 見 通 し	10-12月期 動 向	1-3月期 見 通 し	10-12月期 動 向	1-3月期 見 通 し
全 体	21	14	11	5	29	13
建 設 業	5	26	5	0	21	5
製 造 業	50	20	30	10	30	10
卸 売 業	10	30	0	20	30	40
小 売 業	23	26	16	16	40	26
サービ業	30	20	6	3	23	3
	昨年の同期との比較		昨年の同期との比較		昨年の同期との比較	

	採算 ( 経 常 利 益 ) の 水 準		取引の問い合わせ		従 業 員	
	10-12月期 動 向	1-3月期 見 通 し	10-12月期 動 向	1-3月期 見 通 し	10-12月期 動 向	1-3月期 見 通 し
全 体	9	3	18	21	12	16
建 設 業	10	0	10	10	10	26
製 造 業	40	40	20	23	10	10
卸 売 業	10	10	30	30	10	10
小 売 業	16	16	23	30	16	16
サービ業	23	10	13	16	16	20
	該当期について		該当期について		昨年の同期との比較	

	資金繰り		長期資金借入難易度		短期資金借入難易度	
	10-12期 動向	1-3月期 見通し	10-12月期 動向	1-3月期 見通し	10-12月期 動向	1-3月期 見通し
全 体	9	5	11	4	7	6
建 設 業	15	5	10	0	0	5
製 造 業	30	0	10	0	10	0
卸 売 業	0	10	10	10	0	0
小 売 業	3	3	6	3	10	10
サービス業	5	6	16	6	10	6
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	



## 大 津 商 工 会 議 所

〒520-0806 大津市打出浜2番1号

コラボしが21・9F

TEL 077-511-1500

FAX 077-526-0795

URL <http://www.otsucci.or.jp/>